

令和 7 年度

運営に関する計画

【中間評価】

大阪市立小林小学校

令和 7 年 1 0 月

大阪市立小林小学校 令和 7 年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

令和 3 年度の「運営に関する計画」における最終評価から、本校の現状と課題は以下のとおりである。

全教職員が平素より児童に寄り添い、保護者との連携を密にして教育活動に取り組んでいる。「いじめアンケート」を学期ごとに行い、認知したいじめについては、生活指導部会で共通理解を図り、いじめ防止対策委員会を開き、学校を挙げて対応することで、解消することができた。一方で、令和 3 年度の校内調査の「自分にはよいところがありますか」の項目において、否定的な回答をする児童が 3 割に及ぶなど自尊感情の向上は十分とは言えない。

体力面では、柔軟運動を普段の授業に取り入れたり、全校でストレッチ週間を設けたりするなど、課題である柔軟性の向上に取り組んできた。取り組みを継続的に実施した結果、令和 3 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、男女ともに全国平均を超える記録を残すことができた。学力面では、小学校学力経年調査の結果から、標準化得点において大きく向上し、目標を達成することができた。一方で、全国学力・学習状況調査において、国語と算数が共に全国平均を下回るなど、基礎学力の定着に課題がある児童が多い。

ICT の活用については、令和 3 年度より導入された教育情報利用パソコンの効果的な利用について視聴覚係を中心に模索している。本校では、5 月の分散登校期間を機に毎日端末を持ち帰るようにし、自宅でオンライン学習をできるようにした。しかし、スクールライフノートなどを全学級で取り組んでいるものの、取り組みの頻度は学年間でばらつきが見られる。今後も ICT の活用方法を探り、教職員で共通理解を深め、教職員・児童共に情報活用能力を向上させていく必要がある。

中期目標**【安全・安心な教育の推進】**

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を 82%以上にする。

【学力経年調査 R4:80.9% R5:80.1% R6:81.8%】

- ② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 62%以上にする。

【学力経年調査 R3:58.5% R4:61.1% R5:67.2% R6:60.5%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 令和7年度小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比平均を、令和3年度平均より5ポイント向上させる。

【学力経年調査 R3:0.84 R4:0.78 R5:0.87 R6:0.79】 ※0.01を1ポイントとする。

- ② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。

【学力経年調査 R4:63.7% R5:72.1% R6:70.4%】

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]

【学習者用端末利活用状況 R6:65.4%】

- ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を80%以上にする。

【年次有給休暇10日以上取得 R6:93.3%】

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。

【学力経年調査 R4:80.9% R5:80.1% R6:82.3%】

- ② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を62%以上にする。

【学力経年調査 R4:61.1% R5:67.2% R6:60.5%】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。

【学力経年調査 R6:3年0.76 4年0.81 5年0.75 6年0.84】 ※0.01を1ポイントとする。

- ② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。

【学力経年調査 R4:63.7% R5:72.1% R6:70.4%】

【学びを支える教育環境の充実】

- ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く]

【学習者用端末利活用状況 R6:65.4%】

- ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を94%以上にする。

【年次有給休暇10日以上取得 R6:93.3%】

3 本年度の自己評価結果の総括

○中期目標の達成に向けた年度目標について

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

○年度目標の達成に向けた取組内容について

【安全・安心な教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

【学びを支える教育環境の充実】

大阪市立小林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】 ① 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を83%以上にする。【学力経年調査 R4:80.9% R5:80.1% R6:82.3%】 ② 小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を62%以上にする。 【学力経年調査 R4:61.1% R5:67.2% R6:60.5%】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向性2 豊かな心の育成】 相手の気持ちを考え、思いやりのある学級づくりを進める。 ----- 指標・ 児童がお互いについてよく理解し合い、相手の立場に立って考える機会を設けるために、「いじめ・いのちについて考える日」を年3回実施する。	B
取組内容②【基本的な方向性2 豊かな心の育成】 すすんであいさつができる子どもを育てる。 ----- 指標・ 代表委員会による「あいさつ運動」を年1回以上実施する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標の達成状況】 ① 91%の児童が「いじめはいけないことだ」と捉えていることは学級での指導や「いじめ・いのちについて考える日」の取り組みの成果である。最上位の「そう思う」に回答していない児童が18%近くいることから、指導の仕方を改善する余地がある。【校内調査 R7:82%】 ② 現時点では指標を上回っている。理由としては、学級での長所発見や日々の細やかな声掛けを行っているためである。また、生活振り返りアンケートが、具体的に褒められた経験を再確認する機会になっていると考えられる。【校内調査 R7:72.7%】 【取組内容の進捗状況の結果と分析】 ① 5月に実施した「いじめ・いのちについて考える日」では、各学級が道徳科においていじめに関する教材で学習したことを学校全体で共有することができた。 ② 6月に実施したあいさつ運動では、学級ごとの達成感を可視化することで、児童のあいさつへの意欲を高めることができた。また、「すすんであいさつができる」ことを褒めていくことが、自己肯定感の高まりにつながっている。

年度末への改善点

【年度目標】

- ① 「いじめ」がどのようなものなのかを丁寧に説明することや、発達段階に合わせた指導が必要である。「いじめは絶対にいけない」という児童の意識を高めるために、学級で安心して過ごせる環境を作り、一貫した指導を継続することが重要である。
- ② 昨年度も校内調査においては指標を上回っているものの、小学校学力経年調査においては指標を上回らない傾向がある。これからも児童のよさを具体的に伝え続け、自己肯定感を高める取り組みを進めていく必要があり、必要に応じて家庭の協力も視野に入れる。

【取組内容】

- ① 内容を精査しながら、残り2回も計画的に実施する。また、いじめの定義について児童に伝えていく必要がある。
- ② あいさつの大切さを引き続き全校朝会や学級などで指導していく。

大阪市立小林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】 ① 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント向上させる。 【学力経年調査 R6:3年0.76 4年0.81 5年0.75 6年0.84】 ※0.01を1ポイントとする。 ② 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を71%以上にする。 【学力経年調査 R4:63.7% R5:72.1% R6:70.4%】	B
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 算数科の授業づくりや計算力を高める取り組みを行い、算数科における基礎・基本の力を身につけることができるようにする。 ----- 指標 ・ 算数科の授業づくりについての研修会を年1回以上実施する。	B
取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】 各学年に応じた家庭学習を進められるように工夫する。 ----- 指標 ・ 各学年に応じた家庭学習を進められるよう、「宿題の取り組み方」についての研修を年1回以上実施する。	B
取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】 健康安全・運動的行事を充実させ、運動と健康に対する意識を高める。 ----- 指標 ・ 全学年対象の健康安全・運動的行事を年間3回以上行う。 ・ 全学年、「食に関する指導」を年2回以上行う。	B
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【年度目標の達成状況】 ① 12月に小学校学力経年調査を実施予定である。基礎・基本の力を身につけるために計算タイムや算数科授業の後半10分を「身につける」時間として全学年で取り組んでいる。 ② 最も肯定的な回答は65%であり、目標を下回っている。しかし、肯定的な回答は83.8%であり、多くの児童が運動やスポーツに親しむことができている。暑さ指数の上昇により外遊びを控える児童も見られるが、その中でも児童が工夫して体を動かす機会を見つけ、運動習慣を身につけている様子がうかがえる。 【校内調査 R7:65%】	

【取組内容の進捗状況の結果と分析】

- ① 算数科の授業づくりに関する研修会を学力向上研修以外にも、研究授業の指導案検討会・討議会の際にも行うことができています。また、計算タイムや練習問題に取り組む時間を確保したり、評価テストで学習の定着を確認したりすることで、より基礎・基本の力が身につけられるように取り組むことができています。
- ② 宿題に取り組むことが苦手な児童には、放課後学習で一緒に取り組んだり、一人ひとりに合わせた家庭学習を進めたりしている。そういった各学級の「宿題への取り組み方」を7月に研修で交流し、共有することができた。
- ③ 6月に全学年を対象としたけんこう週間を実施し、手洗い・うがいを習慣づけさせることができた。また、「食に関する指導」を各学級、年2回ずつ計画しており、予定通り実施中である。後期には、運動会、なわとび集会、かけあし集会、けんこう週間を計画している。児童の運動と健康に対する意識を高め、運動やスポーツが好きになる児童を増やせるよう計画的に取り組みを進めていく。

年度末への改善点

【年度目標】

- ① 12月の小学校学力経年調査の結果を基に、改善していく。
- ② 体育部や各学級担任を中心に運動量を確保する工夫をしたり、運動委員会の取り組みや室内でできる活動を取り入れたりして、学校全体での活動を少しずつ増やしていく。

【取組内容】

- ① 評価テストの結果から、児童が苦手なところを分析し、計算タイムや練習問題で基礎・基本の力がつけられるように取り組んでいく。また、児童が多くの練習問題に取り組むことができるよう、授業の内容を精選し、より児童が基礎・基本の力を身につけることができるような授業づくりを目指していく。
- ② 学校として宿題を必ず行うという意識付けのもと、引き続き家庭学習の定着に向けて、家庭と学校が連携を図っていく。今後も各学級・各児童の実態に合わせた宿題の出し方を工夫していく。
- ③ 児童が意識的に運動や健康づくりに取り組めるよう、計画的に健康安全・運動的行事、食に関する指導を実施していく。

大阪市立小林小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】 ① 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上とする。[ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く] 【学習者用端末利活用状況 R6:65.4%】 ② 年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を94%以上にする。 【年次有給休暇10日以上取得 R6:93.3%】	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向6 教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進】 情報社会の特性を理解し、適正な活動ができるよう指導する。 ----- 指標 ・ 全学年、情報モラルについての学習を年1回以上行う。	B
取組内容②【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ゆとりの日（全教職員が18時までに退勤する日）や学校閉庁日の設定、学校行事や会議の精選・短縮などにより、働き方改革を推進する。 【R6 学校閉庁日：夏季休業中9日 冬季休業中4日】 ----- 指標 ・ ゆとりの日を月に4回設定する。 ・ 学校閉庁日を夏季・冬季休業日期间中に合計5日以上設定する。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【年度目標の達成状況】 ① 「心の天気」の活用やデジタルドリルの活用で、学習者用端末利活用状況が95%と目標を大きく上回っている。 【学習者用端末利活用状況 R7:95%】 ② 年次有給休暇を5日（目標値の半分）以上取得した教職員の割合は、90.4%と目標には達していないが、夏季休業中の学校閉庁日の設定により年次有給休暇を取得しやすい環境はできている。 【年次有給休暇5日以上取得:90.4%】 【取組内容の進捗状況の結果と分析】 ① 各学年の実態に応じて、教科の学習や出前授業等で情報モラル学習に取り組むことができている。保護者に向けてスマートフォンの使い方についてミマモルメで発信したり、懇談会で伝えたりしている。

- ② 毎週ゆとりの日を設定することができている。学校閉庁日も夏季休業期間と冬季休業期間に合計１４日間設定している。また、働き方改革が推進され、会議や学校行事の内容を精選することにより、昨年度同時期より教員の時間外勤務時間は減少傾向にある。

年度末への改善点

【年度目標】

- ① 「心の天気」の活用の他に、個別最適な学びと協働的な学びの実現に向け、様々な場面で学習者用端末を活用できるようにしていく。
- ② 冬季休業中にも学校閉庁日を設けることで、休暇を取得しやすい環境を整えていく。

【取組内容】

- ① 引き続き、情報モラル学習に取り組んでいく。保護者に向けても具体的な事例を挙げて、定期的に啓発をしていく。
- ② 今後も業務内容の見直しや学校行事の精選を継続して検討していく。